

授業科目	* 助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)				単位	1		
履修	必修	関連資格			ナンバリング	M I21203J		
開講年次	1年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP4-1 DP5-1			
担当教員	古賀 玉緒、山田 恵、前田 幸							
授業概要	産褥期における助産診断に必要な観察の視点や方法を解説およびロールプレイなどの演習をとおして学び、助産学実習を見据えた知識・技術の習得をめざす。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師に必要な褥婦の健康診査の目的・内容・方法を説明することができる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントの方法を理解し、褥婦の支援を実施するための基礎的知識を説明できる。 3. 褥婦に必要な産褥期のケアが実施できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	0	15	30	0	5	100	
知識・理解 (DP1-1)	20		5				25	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	30		10				40	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)				5		5	10	
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)				25			25	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
母子を一体ととらえたうえで、標準的レベル1～2を達成し、知識や思についてはより詳細に根拠を踏まえた説明ができる。ロールプレイにおいては、より正確な知識や技術が身につき主体的に取り組むことができる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の女性の身体的・心理的・社会的変化についての基本的知識をふまえた上で、助産師に必要な褥婦の健康診査の目的・内容・方法を説明することができる。 2. ロールプレイを通して身体回復・育児技術・母親役割獲得など褥婦に必要な指導の方法や助産技術を根拠をふまえたうえで安全・安楽に実施できる。 3. グループワークにおいてはメンバーと協力し主体的に学習に取り組む学習の成果をまとめることができる。 				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>テーマ:産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア (古賀玉緒)</p> <p>産褥期の身体的をとらえた健康診査の方法と内容について課題を用いて学ぶ</p> <p>1)産褥経過における健康診査・ケア・保健指導について全体討議・解説する。</p>	講義	<p>予習:</p> <p>課題①配布プリントの実施 課題②課題①のプリントを参考にし、関連する内容についてテキストを確認しポイントに下線を引くなどして講義につなぐ。</p>	120
2	<p>テーマ:産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア (古賀玉緒)</p> <p>産褥期の心理的・社会的変化をとらえた健康診査の方法と内容について課題を用いて学ぶ</p> <p>1)産褥経過における健康診査・ケア・保健指導について全体討議・解説する。</p>	講義	<p>予習:</p> <p>課題①配布プリントの実施 課題②課題①のプリントを参考にし、関連する内容についてテキストを確認しポイントに下線を引くなどして講義につなぐ。</p>	60
3	<p>テーマ:産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア (古賀玉緒)</p> <p>産褥期の身体的・心理的・社会的変化をとらえた健康診査の方法と内容について課題を用いて学ぶ</p> <p>1)項目ごとにグループで健康診査の手順書を作成する</p> <p>(1)分娩当日の健康診査についてグループワーク</p> <p>①悪露交換 ②初回歩行</p> <p>(2)各グループの代表者が作成書を発表し全体討議・解説する。</p>	講義・GW	<p>予習:①②に関する留意点や根拠をまとめて手順書を完成させて講義に臨む</p>	60
4	<p>テーマ:産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア (古賀玉緒)</p> <p>産褥期の身体的・心理的・社会的変化をとらえた健康診査の方法と内容について課題を用いて学ぶ</p> <p>1)項目ごとにグループで健康診査の手順書を作成する</p> <p>(1)分娩当日の健康診査についてグループワーク</p> <p>③母児同室 ④授乳指導(直接哺乳)</p> <p>(2)各グループの代表者が作成書を発表し全体討議・解説する。</p> <p>(3)グループ内で手順書の修正を行う。</p>	講義・GW	<p>予習:③④に関する手順書を完成させて講義に臨む</p>	30
5	<p>産褥期の身体的・心理的・社会的変化をとらえた健康診査の方法と内容について課題を用いて学ぶ</p> <p>1)全ての項目ごとに全体討議を行う</p> <p>2)自己の手順書をまとめる</p>	講義・演習	<p>予習:①から④の手順書を見直し、次回の講義につなぐ。</p>	30
6	<p>テーマ:褥婦の支援(古賀・山田・前田・林)</p> <p>1.産褥期の身体的・心理的・社会的変化をとらえた健康診査の方法と内容について課題を用いて学ぶ</p> <p>1)グループごとに作成した手順書を活用し助産技術練習を行う。</p> <p>2)質疑応答にて課題解決に取り組む</p>	講義・GW	<p>予習:①から④の手順書を見直し、次回の講義につなぐ。</p>	60
7	<p>テーマ:褥婦の支援(古賀・林)</p> <p>1.母乳栄養逸脱予防の方法を学ぶ</p> <p>1)母乳栄養逸脱予防の支援について解説する。</p> <p>2)搾汁方法の仕方を実施する</p>	講義・GW	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p> <p>復習:該当部分の復習を行う</p>	60

8	<p>テーマ:特殊な状況にある褥婦への支援 (1)</p> <p>(山田恵)</p> <p>1. 事例をもとに支援について解説する</p>	講義・演習	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p> <p>復習:該当部分の復習を行う</p>	60
9	<p>テーマ:特殊な状況にある褥婦への支援(2)</p> <p>(古賀玉緒)</p> <p>1. 褥婦の心理・社会的適応への支援について解説する</p>	講義	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p> <p>復習:該当部分の復習を行う</p>	60
10	<p>テーマ:特殊な状況にある褥婦への支援 (3)</p> <p>(古賀玉緒)</p> <p>2. 事例について意見交換を行い、支援について述べる事ができる。(GW)。</p>	演習(GW)	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p>	30
11	<p>テーマ:褥婦の支援(岡本亜由美)</p> <p>アロマセラピーを活用した周産期のケアを学ぶ</p> <p>・アロマセラピーの概要について説明する</p>	演習	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p> <p>復習:該当部分の復習を行う</p>	60
12	<p>テーマ:褥婦の支援(岡本亜由美)</p> <p>アロマセラピーを活用した周産期のケアを学ぶ</p> <p>・アロママッサージを実践する(上下肢)</p>	講義	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p> <p>復習:該当部分の復習を行う</p>	30
13	<p>テーマ:褥婦の支援(岡本亜由美)</p> <p>アロマセラピーを活用した周産期のケアを学ぶ</p> <p>・アロママッサージを実践する(背部)</p>	演習	<p>予習:教科書や参考図書を読み、重要箇所に斜線や付箋を示し講義に臨む</p> <p>復習:該当部分の復習を行う</p>	30
14	<p>テーマ:褥婦の支援(古賀・山田・前田・林)</p> <p>1. 産褥経過にそった褥婦の保健指導を実施する(試験)</p> <p>2. 自己の技術を振り返り課題学習に取り組む</p>	演習	<p>予習:保健指導①②③④の手順書を見直し、自己練習を行い試験に向けて準備しておく。</p>	30
15	<p>テーマ:褥婦の支援(古賀・山田・前田・林)</p> <p>1. 産褥経過にそった褥婦の保健指導を実施する(試験)</p> <p>2. 自己の技術を振り返り課題学習に取り組む</p>	演習		30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				

28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	既習した産褥期の情勢の生理や看護ケアを復習し、看護技術(沐浴・ラッチオン・ポジショニング・新生児の抱き方、寝かせ方・衣類の着脱・、排気の仕方・子宮高の測定・子宮底の輪状マッサージなど)はについては、その目的や方法を理解し、正しく行えるように自己学習を行って臨んでください。			
テキスト	我部山キヨ子他編:助産学講座 6 助産診断・技術学[2]分娩期・産褥期,,医学書院 北川真理子他編:今日の助産マタニティサイクルの助産診断,南江堂 上田森生他編:病気が見える Vol.10 第 4 版,MEDIC MEDIA 石村由利子編:根拠と事故防止から見た母性看護技術,,医学書院			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	日本産婦人科学会他編・監:産婦人科診療ガイドライン産科編 2017,日本産婦人科学会事務局 日本助産師会他編・監:助産業務ガイドライン 2014,日本助産師会出版社 必要に応じて資料を配布します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	既存の知識をふまえて根拠を明らかにしたうえで実習で活用できる助産技術を身につけることができよう、個々が予習・復習や自己練習を心がけ、グループワークが円滑に運ぶよう準備をして講義に臨んでいただきたい。 演習では、身だしなみを整え、円滑に展開できるよう準備・後片付けも自主的に行ってください。			
達成度評価に関するコメント	評価は、試験および演習時の技術、グループワークの参加状況、課題の実施状況などにより総合的に判断します。ただし、再試験については試験のみで判断します。			